

# ルール<sup>?</sup>展

Exhibition “Rules?”

# オンラインドキュメント Ver.10

日本語 / [English](#)

最終更新日

[2021年12月24日](#)

開催概要

会場:[21\\_21 DESIGN SIGHT ギャラリー 1&2](#)

会期:2021年7月2日(金)- 11月28日(日)

休館日: 火曜日(11月23日は開館)

開館時間: 平日 11:00 - 17:00、土日祝 11:00 - 18:00(入場は閉館の30分前まで)

入館料: 一般1,200円、大学生800円、高校生500円、中学生以下無料

各種割引については[ご利用案内](#)をご覧ください

21\_21 DESIGN SIGHT 企画展

# ルール? 展

Exhibition "Rules?" 2021.7.2(金)-11.28(日)  
July 2 (Fri)-November 28 (Sun), 2021



展覧会ディレクターチーム: 水野祐、菅俊一、田中みゆき

休館日: 休館日 (11月22日(祝日)) 会場: 21\_21 DESIGN SIGHT キヤブツ 1&2  
主催: 21\_21 DESIGN SIGHT、公益財団法人 三宅一生デザイン文化財団

Exhibition Director Team: Yasuko Mizuno, Shunichi Suganuma, Miyuki Tanaka  
Closed on Tuesdays (Except November 23) Venue: 21\_21 DESIGN SIGHT Gallery 1&2

21\_21

この展覧会は、ルールについてのデザインの展覧会です。

ルールとデザインにどういう関係があるのか、疑問に思う人もいるかもしれません。

日常にあるモノやサービスは、さまざまなルールの影響を受けています。

また、ルールは私たちの行動やふるまいを規定しています。

ここでは、デザインによってルールに対する見方を変えたり、  
逆にルールをデザインすることによって物事や社会に働きかけたりすることを考える場を、  
来場者の皆さんとともにつくりたいと考えています。

ルールは、あなたを縛るものではなく、  
あなたがこの社会で自由に生きるために存在します。

この展覧会の会場には、みんながともにより良い体験をつくるために、  
あなた自身の判断と責任で展覧会に関わることができる余白を残しています。

参加しないことも自由ですが、参加することで、  
この展覧会をより実感をもって楽しむことができるかもしれません。

余白は、あなた自身で判断して、  
危ないところは自分で見極めて楽しんでください。  
必要な場合は、他の人と譲り合ったり、話し合ったりしてみましょう。

体験を制限するような禁止事項はできる限りつくっていませんが、  
個々の体験が守られない場合は、会期中に注意書きやお願いが加えられていきます。  
もしかすると、そのままの形で楽しめなくなる作品や展示もあるかもしれません。  
そうならないために、来場者とスタッフと一緒に作っていく展覧会だともいえます。

この展覧会では、専門的な用語に敢えて注釈や解説を入れていない場合があります。  
わからない言葉があっても、想像してみたり、調べてみることで、  
自分なりの鑑賞体験がつけられていく。  
私たちはそのような態度で、本展覧会を企画・構成しています。

また、この展覧会は、より深く楽しみたい人のために、今ご覧になっているこのオンラインの情報を  
見ながら楽しむことができ、情報は会期中も更新されていきます。

一人ひとりが自分で考えることで、それぞれが尊重され、  
自由に生きられる社会は、どのようにつくれるのでしょうか。  
そのためにルールができることを、一緒に考えましょう。



# ルール?

Exhibition "Rule?"



2022.7.23(土) - 12.28(水)

10:00 - 18:00

入場料 無料

主催 21\_21

協賛 東京都立美術館

21\_21

#これもルールかもしれない



# あなたでなければ、誰が？

この作品の元となる《100%トーキョー》(2013年)は、その時点での東京の人口統計に基づいて集められた100人の市民へのライブ意識調査演劇でした。この作品は、それに着想を得て、鑑賞者が自ら統計を構成するサンプルとなる体験型展示です。多数派と少数派を分ける質問の背後には、疑似的な社会が見えてきます。多数派に含まれない答えが身体を伴って目の前に現れる時、100%のYESやNOがほとんど成立し得ない事実気づかされます。新型コロナウイルスにより社会環境が変化し、さまざまな構造的差別が明らかになり始めた現在において、他者と自分を分ける境界線や、相対的な存在としての自分の位置を俯瞰します。

ダニエル・ヴェッツェル(リミニ・プロトコル) 田中みゆき

小林恵吾(NoRA)×植村 遥 萩原俊矢 × N sketch Inc.

テキスト／サウンド:ダニエル・ヴェッツェル(リミニ・プロトコル)

プロデューサー／テキスト:田中みゆき

空間構成:小林恵吾 植村遥

テクニカルディレクション:萩原俊矢

システムプログラミング:藤波秀磨(N sketch Inc.)

インタラクティブデザイン:関根雅人(N sketch Inc.)

テクニカルアーティスト:清水 快(N sketch Inc.)

ソフトウェアエンジニア:湯本 遼(N sketch Inc.)

モーショングラフィックス:室井 健(N sketch Inc.)

テクニカルアドバイザー・機材協力:ルフトワーク

グラフィックデザイン:UMA/design farm

統計アドバイザー:中村和幸(明治大学)

翻訳:山田カイル

制作:戸田史子

協賛:株式会社precog／THEATRE for ALL

協力:早稲田大学小林恵吾研究室

撮影:吉村昌也

体験時間:約15分



# あなたでなければ、誰が？

## 法的視点からの考察

民主主義のもとでは人間はみな平等であり、少数意見は尊重すべきとされる。しかし、多数決は少数意見を汲み取る手法ではなく、多数決と少数意見の尊重は本来、折り合わない。それでも、現在多くの国で採用されている立憲民主主義では、民主主義と多数決は不可分の関係にある(と考えられている)。多数決は票割れに弱く、民意を正確に反映できない等の弱点を多く指摘されているにもかかわらず、民主主義的手法として広く普及しているのはなぜか。多数決よりも優れた意思集約の方式はないのだろうか。

## データで見る社会

世界で最も幸福度が高いとされるフィンランド。その幸せは何で計られる？

### 世界幸福度ランキング

総合順位	国名	幸福度得点	総合順位	国名	幸福度得点
1	フィンランド	7.842	13	ドイツ	7.155
2	デンマーク	7.620	14	カナダ	7.103
3	スイス	7.571	17	イギリス	7.064
4	アイスランド	7.554	19	アメリカ	6.951
5	オランダ	7.464	21	フランス	6.690
6	ノルウェー	7.392	28	イタリア	6.483
7	スウェーデン	7.363	56	日本	5.940
8	ルクセンブルグ	7.324	62	韓国	5.845
9	ニュージーランド	7.277	84	中国	5.339
10	オーストリア	7.268			

出典)国連「[World Happiness Report 2021](#)」をもとに作成

# 21\_21 DESIGN SIGHT

ESTABLISHED BY MIYAKE ISSEI, 2007

→ GALLERY 1

→ GALLERY 2

→ SHOP

← GALLERY 3

# 展覧会クレジット

主催: 21\_21 DESIGN SIGHT、公益財団法人 三宅一生デザイン文化財団

後援: 文化庁、経済産業省、港区教育委員会

特別協賛: 三井不動産株式会社

展覧会ディレクターチーム: 水野 祐、菅 俊一、田中みゆき

グラフィックデザイン: UMA/design farm

会場構成: dot architects

オンライン体験設計: 奥田透也

参加作家: 石川将也 + nomena + 中路景暁、ダニエル・ヴェッツェル(リミニ・プロトコル) + 田中みゆき + 小林恵吾 (NoRA) × 植村 遥 + 萩原俊矢 × N sketch Inc.、遠藤麻衣、葛宇路(グウ・ユルー)、高野ユリカ + 山川陸、一般社団法人コード・フォー・ジャパン、コンタクト・ゴンゾ、佐々木 隼(オインクゲームズ)、NPO法人スウィング、田中功起、丹羽良徳、野村律子、早稲田大学吉村靖孝研究室、Whatever Inc.

21\_21 DESIGN SIGHT担当: 石井潤美(企画)、吉田あさぎ(施工)、田代未来子(広報)

21\_21 DESIGN SIGHTディレクター: 三宅一生、佐藤 卓、深澤直人

アソシエイトディレクター: 川上典李子

プログラム・ディレクター: 前村達也